

# 森為三先生の思い出

山 本 茂 信

森会長の御死去を神戸新聞で知り、非常に驚いた。平素より先生に敬服している私にとっては、感慨無量で唯々御冥福を一途に御祈りした次第である。

去る5月武庫川女子大において、兵庫県生物学会の総会が開催され、その席上先生が御研究されていた城崎郡香住町鏝より発見された魚の化石のカラーライドをお渡ししたのが、先生と最後の別れとなった。本年早々より先生は皇太子殿下に魚についての御進講をされる御準備に精進されており、そのひまをみて魚の化石についての色々な質問をされ、またアメリカに化石の論文を注文されるなど、実に御熱心な御研究心には心から敬意を表していた。

国立公園候補地山陰海岸の学術調査が、財団法人日本自然保護協会の方々でこの夏実施されることになり、7月11日に大阪においてその打合せ会が開かれた。その席で先生と私が動物班としてあげられ、先生もお元気で調査に参加していただくよう願っていたが、ちょうど先生は去る5月末から赤血球に異変を感じられ、姫路の日赤病院で診断の結果、赤血球が半減し極度の貧血とのことで入院、しばらく静養され、三週間ぶりに退院、その後通院などでお暮しの様子であったので、内心心配していた。当日も先生は御出席なく、大阪自然博物館長筒井嘉隆先生が、森博士は御病気であるので、調査には参加できないかも知れないが、山本君に調査してもらい、その報告と手持文献で報告書を作るから一応調査委員は承諾したとのことであった。しかしその後、1週間後には不幸にも御他界されたわけで、最後の調査計画に先生と一緒にになったことは不思議な御縁と思っている。その後、調査は筒井博士と私で動物班の仕事を、先生の面影をえがきながら果した。

但馬において先生には色々生物学会やら、個人的に御指導御鞭撻をいただいたが、特に本年5月3日、養父郡八鹿町石原真言宗日光院に県立自然公園但馬山岳妙見山資料館が完成し、そのなかに豊岡高校生物部が過去5年にわたって採集整理をした生物標本を奉納した。開館の当日、来賓の先生には幾多貴重な御高見を御挨拶のなかにいただき、長時間我々後輩の為にお願いしたことは、非常に有難く思っている。幸にもテープにとって残してあるので、資料館をたずねた際、日光院住職森田裕親氏とともに、テープをかけては先生をしのである。この開館前夜、先生と八鹿駅で落ち合い、車で日光院に向い

る。同夜先生と資料館を設計された県土木部主査伊達嶺雄氏と住職の4人でなごやかに夕食をとり、色々な博物館経営のお話をお伺いしたことも非常になつかしく、数々のお教をこれから生かして、この博物館を発展させて行き、先生の御指導を十分生かしていきたいと考えている。翌朝先生は開館式前は、日光院の西方600m登った所にある玉が峰展望台に78才の御高齢でお元気に登られ、西方はるか妙見山、または蘇武岳を望まれ、ふりかえって東方丹波丹後境の床尾山などの但馬の山々を展望された。これが但馬で先生の最後の登山であったと思う。ここは小鳥が多かったので、先生はこの付近を小鳥の声をきく場所に最適であると、しばしば立ち止まって聞いておられ、観光開発についての色々な御意見ももらされた。この高い展望台にお元気で登られたことに一同感嘆した次第である。

開館式は先生の御挨拶が一番見事であり、祝賀会も先生を中心に進められた。話題は先生の御挨拶中の数々の御言葉が、列席の方々からもれていた。当日は先生の御人格並に御見識の高さに、皆感じ入っていた。日光院の前庭でお別れした時のお姿が今なお目に見えるようである。

昭和27年8月9日より11日まで、兵庫県生物学会の採集会が妙見山並に水ノ山において実施せられ、約80名が八鹿駅よりバスで八鹿町棒色まで行き、それから徒歩で妙見越えをして、夕方おそく村岡町福岡に着いたが、この時68才であらせられた先生は、実にさっそうと登山並に採集を実施せられ、御指導されながら進まれたお姿は実に尊く感じている。1000m以上の山を二つ徒歩で採集行されたことに対して、今更ながら敬意を表している。また先生は美方郡浜坂町居組の鳥取県境の一本松や、美方郡温泉町竹田泰雲寺大シダレザクラ、温泉町丹土のマメシジミ、城崎郡竹野町中村の大ザクラ、雲方郡村岡町瀬川山東麓麓完塚の大カツラ豊岡市周辺や八鹿町に生息している特別天然記念物のコウノトリなどの天然記念物の調査と、昭和31年5月27日28日、約400名の会員が集合した城崎での兵庫県生物学会の第10回総会をはじめ、但馬支部の会合や臨海実習には豊岡、香住、諸寄などにお出かけ下され、会員を親しく御指導下さった事に対し、重ねて感謝の誠をささげつつ簡単ながら思い出の記と致し今ここに謹んで御冥福を心から御祈り致す次第である。1962年9月 彼岸中日記